

令和7年度 春日部市市民活動センター「ぽぽら春日部」実施事業一覧 (1/3)

No	事業名	市民活動センター「6つ」の機能 ◎＝主に担う機能(1つ) ○＝相応に担う機能(複数可)						令和6年度 実施結果に対する課題と今後の対応	令和7年度 目的 目標	令和7年度 実施予定
		1 市民活動の窓口、相談、支援機能	2 情報収集・提供・発信機能	3 交流・ネットワーク機能	4 活動拠点及び事務所機能	5 市民活動に関する学習・研修機能	6 マッチングと協働支援の機能			
1	利用者会議		○	○	◎			【課題】 ・利用者会議に参加はしないが、普段から施設を利用している登録団体や一般利用者に、興味をもってもらえていない。 【今後の対応】 ・引き続き、開催前の周知および開催後の報告に関する情報発信を徹底していくとともに、ぽぽらフェスティバル等関心の高い事業と連携して実施していく。 ・審議会でのコメントも踏まえ、団体同士の交流の場としても機能させていく。	利用者との意見交換の場をつくり、公正かつ透明な運営を実現する。 年4回（各回2回開催）の開催 各回参加者20名以上	第1回：6月8日／6月12日・実施 第2回：8月中旬実施予定 第3回：10月下旬実施予定 第4回：2月中旬実施予定
2	利用者アンケート				◎			【課題】 ・年2回のアンケートの実施で回答者の大半が被っているため傾向にあまり差がみられない。全体的に回答者の事業への関心が低く、各々の利用目的以外に関心を持ってもらえていない。 【今後の対応】 ・窓口での声がけ等、できるだけさまざまな利用者にアンケートへの回答を協力してもらう。 ・通常の広報活動に加え、館内の掲示物や窓口での案内を強化し、事業を周知していく。事業計画を早期立案し、広報かすかべへの情報掲載をルーティン化するとともに、チラシ、HP、SNSの訴求期間を長期化し、発信量を増加させる。	センターへの評価や意見を収集するためのアンケートを実施し、結果を公正かつ透明な運営に活かす。 年2回の実施、各回の回答数200	8月および1月に実施予定 団体の支援ニーズを測る設問を追加検討
3	市民活動講座	○	○			◎		【課題】 ・今年度はぽぽら春日部が広報紙に掲載されたことを好機と捉え、市民活動を知らない・参加したことがない人に足を運んでもらうための講座を多く開催したが、既存の団体向けの講座が相対的に減少した。 【今後の対応】 ・デジタルサポート系の事業は支援ニーズが高いため、継続して実施。埼玉県立大学の学生団体との協働により「スマホサロン」を相談事業として定期開催。 ・一般市民も参加しやすい講座だけでなく、活動団体向けの専門的な講座もバランスよく実施していく。	市民活動に役立つ各種講座を開講し、市民活動の継承やステップアップにつなげる。 年4回以上の開催 アンケートで満足度70%以上	市民活動のステップアップのための既存の活動団体向けの講座と、広く一般市民に向けた啓発講座の二本立てで企画する。 5月28日：伝わるデザイン講座実施 9月17日・24日／10月15日・22日 総務省デジタル講座 「スマートフォンを使いこなそう」 1月：NPO会計講座
4	協働を促す企画			○			◎	【課題】 ・実行委員会や場の活用、イベント等、協働を促すためのきっかけを仕組み化できているものもあるが、課題解決に向けた取り組みはまだ少ない。 ・市民活動団体と自治会、市民活動団体と企業等、地域の異なる主体との連携機会を増やしていく必要がある。 【今後の対応】 ・自治会や市民活動団体へのアウトリーチ活動を通じて課題を共有していくとともに、地域のさまざまな主体が継続的に意見交換ができる機会づくりに取り組んでいく。	さまざまな課題を解決するため、市民活動団体や企業、自治会等とのコーディネートを行い、協働のきっかけをつくる。 年に4つ以上の協働プロジェクトをコーディネート	4月～12月：ぽぽらフェスティバル実行委員会 8月：ぽぽらで遊ぼう 2月：まちづくりシンポジウム 2月：春日部SDGsフォーラム
5	市民団体交流会			◎			○	【課題】 ・内向きの活動団体が多いため、活動を広げるための新たな出会いへのモチベーションは必ずしも高くない。他の活動への興味を喚起していく取り組みも必要と考える。 【今後の対応】 ・利用者会議に交流会的な要素を取り入れ、活動を知り、交流する機会を増やしつつ、さまざまな団体が気軽に参加しやすい交流会を企画する。	登録団体がお互いを知り、連携につながる場や機会を提供する。 交流会の参加団体数15団体以上	昨年度と同様、3月に団体交流会を実施。 または、利用者会議の中での交流会実施も検討する。

令和7年度 春日部市市民活動センター「ぽぽら春日部」実施事業一覧 (2/3)

No	事業名	市民活動センター「6つ」の機能 ◎＝主に担う機能(1つ) ○＝相応に担う機能(複数可)						令和6年度 実施結果に対する課題と今後の対応	令和7年度 目的 目標	令和7年度 実施予定
		1 市民活動の窓口、相談、支援機能	2 情報収集・提供・発信機能	3 交流・ネットワーク機能	4 活動拠点及び事務所機能	5 市民活動に関する学習・研修機能	6 マッチングと協働支援の機能			
6	周年記念イベント「ぽぽらフェスティバル」	○		○		◎		【課題】 ・過去最大の出店数ではあったが、ぽぽら春日部の登録団体数からすると極一部の団体である。 【今後の対応】 ・次年度も継続的に賑わいのあるフェスティバルを目指すとともに、参加しなかった登録団体に向けて参加を呼びかけ、市民に向けて市民活動に触れる機会を提供していく。	多くの市民に市民活動を周知し、活動への参加のきっかけをつくるとともに、活動発表の場を提供することによって市民活動の継承とスキルアップを狙う。 昨年度（56団体）以上の登録団体の参加を目指す。	12/6（土）7（日）の2日間開催 ふれあいキューブ・保健センターと合同開催
7	月間イベント	○	○			◎		【課題】 ・継続的な声掛けにより、件数は大幅に増加したが、特定の団体に偏らないように制度の活用を周知するとともに、活動団体が外に向けて積極的に活動を発信できるようサポートしていく必要がある。 【今後の対応】 ・件数が増えてくることを想定し、制度の運用・ルールを整備していく。 ・団体活動がさらにステップアップしていけるように、実施団体と制度利用後に振り返りを行う。	共催事業として活動を実践・発表・報告する機会を提供し、各々の市民活動団体がステップアップしていくことを目指す。 パネル展示や会議室を活用したイベント24回実施（昨年度18回）	4/1～30：粕壁写真クラブ「友好写真展」 4/4：灯り（1983）「折り紙教室」 5/25：春日部市国際交流協会「多文化交流サロン」 6/21～7/20：桐の会「作品展示」 6/29：NPO法人子ども支援プラットフォーム・学習会 その他実施予定団体 彩の国環境大学修了生の会 経営革新塾しよう会 春日部九条の会 こどもさあくる。
8	情報発信	○	◎			○		【課題】 ・ホームページの閲覧数は増加傾向にあるものの、登録団体からの発信（記事の掲載）は一部の団体に限られており、団体自身が活動を発信していけるようにサポートしていくことが必要。 ・Facebook、Xのフォロワー数の増加が少ない。 【今後の対応】 ・ホームページの利用団体を中心に使い方を丁寧にサポートするとともに、新規登録の受付時にホームページの活用を促す。 ・フォロワーや利用者拡大を目的としたチラシを作成し、交流ミーティングスペースを利用する学生を中心に案内する。	より多くの市民に情報を届け、市民活動に興味を持ち、参加してもらうきっかけをつくる。 Xフォロワー数1000名以上 （3月末フォロワー791名） メールマガジン購読者200名以上 （3月末購読者数114名）	広報誌ぽぽらだより年4回（春・夏・秋・冬）号発行 ホームページページ・Facebook・X・メールマガジン・春日部市公式SNS・安心安全メール・広報かすかべ等、各種媒体を活用しタイムリーな情報発信を継続する。 フォロワー獲得の為、交流ミーティングスペース利用者向けのチラシ（カード）配布等をおこなう。 市民活動講座参加者に対してメールマガジンの案内を継続的に実施する。
9	相談事業	◎	○	○				【課題】 ・アドバイザーへの相談は基本予約制としているが、不在時には職員が対応できるように知識とスキルの向上が求められる。 【今後の対応】 ・相談内容の記録をもとに職員間で対応について勉強会を行うなどのスキルアップを図る。	市民活動の立ち上げから運営まで、さまざまな相談に対応し、個別の支援ニーズに対応する。 相談件数100件（職員のスキルアップを図り、アドバイザーに頼らずに相談対応可能な体制を目指す）	相談窓口は年間を通して設置 職員のスキルアップを図り、アドバイザーに頼らずに相談対応可能な体制を目指す。たまサボ等が実施する研修会等に積極的に参加する。
10	運営パートナー制度	○			◎		○	【課題】 ・既存の利用者を中心に、運営パートナー（ボランティア）として関与できる活動内容を知ってもらい関心を持ってもらう必要がある。 【今後の対応】 ・頻繁に施設に来訪する利用者に対して、運営パートナー制度を案内・募集するとともに、ボランティアが関与できそうな活動内容を増やしていく。	施設の運営に市民も参加してもらうことで、より公正で開かれた施設の実現に寄与する。	7月、2月実施予定、運営パートナー会議を開催 ※既存の運営パートナーは定期的に活動 印刷パートナー、編集パートナー、イベントパートナー、装飾パートナー 制度の案内は定常的に実施する。 新たなパートナーを検討する。
11	モヤモヤカフェ	○		◎				【課題】 ・ゆるやかにつながる対話の場を増やしていくことが大切であるが定期的に開催できていない。開催結果の共有も若干滞っている。 【今後の対応】 ・テーマや開催方法を改善していくとともに、フィールドリサーチ等の他の事業と連動して市民との接点を増やしていく。開催結果はホームページ等で共有していく。	個人や団体がゆるやかにつながることを通じて、それぞれの活動が活発化し、広がることを目指す。 年6回実施	計画的に実施できる様に担当者を決めて推進する。 7月：遠藤（健）8月：永友 9月：遠藤（豊）10月：小笠原 11月：市川

令和7年度 春日部市市民活動センター「ぽぽら春日部」実施事業一覧 (3/3)

No	事業名	市民活動センター「6つ」の機能 ◎＝主に担う機能(1つ) ○＝相応に担う機能(複数可)						令和6年度 実施結果に対する課題と今後の対応	令和7年度 目的 目標	令和7年度 実施予定
		1 市民活動の窓口、相談、支援機能	2 情報収集・提供・発信機能	3 交流・ネットワーク機能	4 活動拠点及び事務所機能	5 市民活動に関する学習・研修機能	6 マッチングと協働支援の機能			
12	フィールドリサーチ 団体訪問		○				◎	【課題】 ・計画的に実施出来ていない現状がある事と、取材結果の共有などが不十分となっている。 【今後の対応】 ・地域メディアとの連携やボランティアの活用等を模索しつつ、取材結果をホームページやぽぽらだより等で発信していく。	活動実態や支援ニーズを現場訪問を通じて調査し、地域の人材を可視化していくことで市民活動の基盤を整備する。 年4回以上実施	上期（4～9月）：2団体 下期（10～3月）：2団体 実施結果は随時ホームページに掲載。
13	施設利用の 活性化				◎			【課題】 ・交流ミーティングスペース、共同事務室等、本来とは異なる用途で利用されているスペースは使用状況を踏まえて現実的に改善を図る必要がある。 ・貸事務所については、利用ニーズを的確に掴み、さらなる認知の向上に努める必要がある。 【今後の対応】 ・貸事務所については定期的に内覧会を実施し、広域でPR活動を行う等、まずは認知度の向上に取り組むとともに、引き続きアンケートやヒアリングにて利用者ニーズの把握にも努める。	市民活動団体への必要な支援として、施設の環境整備や機能の拡充、利便性の向上に取り組む。	施設利用の活性化・有効活用のための施設の環境整備・拡充や機能拡大を随時実施 貸事務所内覧会を9月に実施予定
14	施設PR		◎		○			【課題】 ・広報かすかべの掲載にあわせて一般市民向けのイベントを実施するも、大きな反響とまでには至らず、より分かりやすく参加しやすい企画から市民活動への関心喚起が必要。 【今後の対応】 ・藤まつりへの出展やふれあい大学への出講等は継続しつつ、多くの市民の皆様にはぽぽら春日部を知っていただく機会には引き続き積極的に参加していく。	藤まつりへの出店やふれあい大学の講義など、館外のイベントへの参加を通じて、センターの認知向上を図る。	4月：藤まつりへの出店 11月：ふれあい大学の出講
15	シンポジウム		○			◎	○	【課題】 ・子育て当事者よりも、支援者向けのテーマ設定、講演内容となり、一般市民への訴求が弱かった。専門的なテーマをより多くの市民の興味・関心、自分事として捉えてもらうための工夫が必要。 【今後の対応】 ・比較的市民の関心が高そうなテーマを扱うか、春日部の課題や市の施策を扱うか、議論を深めた上で実施していく。	市民活動や地域課題、まちづくり等について、市民への啓発に取り組む。 シンポジウム参加者数30名以上	2月開催予定 実施内容に関して議論する。
16	活動見本市		○			◎		【課題】 ・団体自身が活動を振り返る機会にはなっているが、他団体の活動にどれだけ関心を持ってもらえているか測る指標がない。 ・必ずしもすべての団体が発表・報告の必要性を感じているわけではない。 【今後の対応】 ・動画見本市に関しては、団体へのヒアリング等を通じて必要性の有無を再検討する。	登録団体が活動を振り返り、ステップアップするための機会とすると共に、団体同士が互いの活動を知る機会をつくる。 参加団体数35団体以上	1～3月開催予定
※	こども体験プログラム		○			○	◎	新規自主事業	こどもを取り巻く地域課題を解決するため、市民活動団体とのコーディネートや協働の仕組みの構築を図る ※こども育成課からの委託事業 年5回体験プログラムを提供	8月：シャボン玉ショー観劇（文化会館） 9月：稲刈り体験（野口農園） 11月：凧作りワークショップ（ハルカイト） 12月：タケちゃんワークショップ（ひだまりホール） 3月：コミュニティプレイバス（ひだまりホール）
※	ユースセンター 実証実験		○			○	◎	新規自主事業	こどもを取り巻く地域課題を解決するため、行政や大学、市民活動団体とのコーディネートや協働の仕組みの構築を図る ※こども育成課からの委託事業、夏休み期間の居場所運営実証実験	7/24～8/24武里市民センターで中高生世代を対象とした（仮称）ユースセンターを開設 お盆期間を除く24日間実施予定